

介護福祉士の3種施設における介護と在宅介護の比較

藤井保人	橋本祥恵
小玉美智子	片山信子
迫明仁	住居広士
岡野初枝	井村圭壮
森下早苗	

はじめに

近年、日本は諸外国に見られなかった急速なスピードで高齢化社会の向かいつつあり高齢者福祉の現場も様々な変容を呈している¹⁾。制度面では在宅介護支援センター、老人保健施設等が新設され、また利用者も寝たきり老人、痴呆性老人の数が急増している²⁾。この時期に当たり、我々介護福祉士養成に携わる者として、各施設・事業所に於ける介護福祉士の、今日の業務内容を正確に把握する必要を感じ、この調査を行った。

調査は岡山県下で働く介護福祉士を対象に、個人の属性に関する「基本事項」と、日常携わっている「業務内容」に関する調査を行い、各種施設・事業所で勤務する介護福祉士の個人属性の差異、及び3種施設入所老人の介護と在宅老人の介護に対する、介護福祉士の業務内容の比較を行った。

方法

調査方法と内容

平成5年秋、岡山県下の「養護老人ホーム」、「特別養護老人ホーム」、「老人保健施設」、「社会福祉協議会・他」に勤務する、直接介護業務に携わる介護福祉士118名を対象に、職種・年齢・勤務年数・職務経験年数・1週間の勤務時間・取得資格・希望資格（共に複数回答）からなる「基本事項」と、67の業務に対する関わり度と困難度を、郵送法により調査した。67の業務内容は22の項目に分類し、更に6種類（『生命』:17業務、『生活』:15業務、『情報』:13業務、『医療』:15業務、『末期』:4業務、『在宅』:3業務）にまとめた。各項目において平易と思われる業務から専門的な知識や技術が要求される業務まで幅広く業務内容を選択した（表3-1, 2）。

各業務内容を文章化し、関わり度については

1. 関わっていない、あるいはそのような業務はない

2. 補助的、あるいは場合によっては関わっている

3. 主として、あるいは通常的に関わっている

以上、「1」、「2」、「3」の数字で回答を得、関わり度の数量化を試みた。また困難度においては関わり度が「2」または「3」と回答した者のみ記述するように質問を設定し

1. ほとんど困難は感じていない

2. 時や場合によっては困難を感じている

3. いつも困難を感じている

以上、「1」、「2」、「3」の数字で回答を得、関わり度と同様に困難度の数量化を試みた。

「基本事項」の分析

年齢・勤務年数・職務経験年数・1週間の勤務時間に関して、それぞれの施設事業所で平均値を求め比較した。取得資格・希望資格については、12種類の資格・免許に対して取得者及び希望者の人数を、それぞれの施設事業所の全解答者数を分母とした百分率で求めた。

関わり度と困難度の相関関係の分析

4種の施設及び事業所における67業務に対する関わり度と困難度の平均を求めた。但し困難度においては、関わり度が「2」または「3」と答えた者のみから回答を得たので、この条件を満たす者が回答者の15%未満であった業務を除外し、4種施設・事業所共に残り62業務において以下の検討を行った。但し各施設・事業所において除外された業務は異なっていた。

まず4種施設・事業所それぞれに関わり度の高い順に6業務毎にグループを作りそれぞれのグループの関わり度・困難度の平均と、困難度の標準偏差を求めた。ただし最も関わり度の低いグループは8業務により構成された。更に各施設・事業所別に、業務の関わり度と困難度間の回帰直線と相関係数を求めた。

業務の種類別関わり度の比較

各施設・事業所において介護福祉士が行う業務の関わり度順位を求め、業務の種類別に概観した。すなわち各施設・事業所において、67業務に関わり度の高い順に13業務毎に5グループに分け（但し最も関わり度の少ないグループは15業務により構成された。）これを順位グループとし（最上位グループ、上位グループ、中位グループ、下位グループ、最下位グループ）、67業務の順位グループ別、業務の種類別に2次元度数分布を求め、各種類毎に含まれる業務数の合計を分母とした百分率で表した。

業務の種類別困難度の比較

困難度においても関わり度と同様に2次元度数分布を求めた。但し、関わり度と困難度の相関

関係の分析と同様に、関わり度が「2」または「3」と答えた者が回答者の15%未満であった業務を除外し、4種施設・事業所共に62業務において検討を行った。この場合62業務に関わり度の高い順に12業務毎に5グループに分け、最下位グループは14業務により構成された。

結 果

基本事項

(a) 所属施設・事業所

養護老人ホーム……………21名

特別養護老人ホーム…62名

老人保健施設……………13名

社会福祉協議会・他…22名

但し社会福祉協議会・他には社会福祉協議会16名に、地方自治体（市町村）4名、社会福祉事務所2名を加えた。

(b) 職種

養護老人ホーム……………全員寮母

特別養護老人ホーム… ♫ 寮母

老人保健施設…………… ♫ 介護員

社会福祉協議会他…… ♫ ホームヘルパー

表1. 介護福祉士の個人属性

基本事項	養護 老人ホーム	特別養護 老人ホーム	老人 保健施設	社会福祉 協議会・他	平 均
年齢	38.2	41.1	25.4	47.1	39.9
勤務年数	7.8	8.8	2.6	8.5	7.5
職務経験年数	8.5	9.2	2.8	9.2	8.6
勤務時間/週	39.3	42.8	39.3	38.8	41.0

(c) 年齢・勤務年数・経験年数・勤務時間/週

老人保健施設勤務の介護福祉士の平均年齢（25.4歳）、平均勤務年数（2.6）年、平均職務経験年数（2.8年）共に他とは大きな隔たりがあり（表1）、student t 検定の結果、いずれも他の3施設・事業所との間に有為差が認められた（ $P < 0.01$ ）。

表 2-1. 取得資格・免許

施設・事業所 資格・免許	養護老人ホーム	特別養護老人ホーム	老人保健施設	社会福祉協議会・他	合計
資格・免許なし	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
保母	14.3	19.4	7.7	18.2	16.9
幼稚園教諭	0.0	11.3	7.7	4.5	7.6
小、中、高校教諭	19.0	6.5	0.0	9.1	8.5
特殊教育諸学校教諭	0.0	1.6	0.0	0.0	0.8
養護教諭	4.8	3.2	7.7	0.0	3.4
社会福祉士	0.0	1.6	0.0	0.0	0.8
介護福祉士	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
ホームヘルパー	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
理学、作業療法士	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴能、言語訓練士	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
看護婦、準看護婦	4.8	1.6	0.0	4.5	2.5
保健婦、助産婦	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	9.5	14.5	7.7	13.6	12.7

表 2-2. 希望資格・免許

施設・事業所 資格・免許	養護老人ホーム	特別養護老人ホーム	老人保健施設	社会福祉協議会・他	合計
資格・免許なし	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
保母	4.8	0.0	7.7	4.5	2.5
幼稚園教諭	0.0	0.0	0.0	4.5	0.8
小、中、高校教諭	0.0	1.6	0.0	0.0	0.8
特殊教育諸学校教諭	0.0	0.0	7.7	0.0	0.8
養護教諭	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
社会福祉士	23.8	29.0	38.5	36.4	30.5
介護福祉士	0.0	0.0	0.0	4.5	0.8
ホームヘルパー	9.5	17.7	15.4	4.5	13.6
理学、作業療法士	14.3	12.9	7.7	13.6	12.7
聴能、言語訓練士	0.0	3.2	15.4	4.5	4.2
看護婦、準看護婦	4.8	8.1	7.7	4.5	6.8
保健婦、助産婦	4.8	1.6	0.0	0.0	1.7
その他	9.5	6.5	7.7	13.6	8.5

(d) 取得資格

養護老人ホームに勤務する介護福祉士では“保母”と“小、中、高校教諭”の免許を持つ者が、特別養護老人ホームにおいては“保母”と“幼稚園教諭”が、社会福祉協議会・他では“保母”の資格を持つ者が10%以上認められた。全介護福祉士中でも保母資格を有する者は回答者の16.9%と、介護福祉士の資格以外の資格の中で、最も高い取得率を示した(表2-1)。

(e) 希望資格

“社会福祉士”を希望する者が回答者の30.5%と高率を占め、とりわけ老人保健施設では38.5%と4割近くを占めた。他には養護老人ホームにおいて“理学、作業療法士”が、特別養護老人ホームにおいては“ホームヘルパー”と“理学、作業療法士”が、老人保健施設では“ホームヘルパー”と“聴能、言語訓練士”が、社会福祉協議会・他では“理学、作業療法士”が10%以上であった(表2-2)。

業務内容(表3-1, 2)

(a) 関わり度と困難度の関係

業務全般に渡る関わり度と困難度を4施設・事業所間で比較すると、関わり度に関しては特別養護老人ホームにおいてやや高い傾向が、養護老人ホームにおいてやや低い傾向が見られた(図1)。困難度に関しては特別養護老人ホームにおいて高い傾向が見られ、次いで社会福祉協議会・他においてやや高い傾向が見られた。尚、養護老人ホームと老人保健施設

介護福祉士の3種施設における介護と在宅介護の比較

表3-1 関わり度と困難度の平均値（Ⅰ）

施設・事業所			養護 老人ホーム		特別養護 老人ホーム		老人保健施設		社会福祉 協議会・他	
職 種			寮 母		寮 母		介 護 員		ヘルパー	
回 答 者 数			21		62		13		22	
種 類	項 目	業 務 内 容	関 わ り 度	困 難 度	関 わ り 度	困 難 度	関 わ り 度	困 難 度	関 わ り 度	困 難 度
生 命	食事栄養	配膳食事	2.48	1.38	3.00	1.65	3.00	1.46	2.09	1.42
	食事栄養	量・嗜好	2.10	1.26	2.87	1.47	2.77	1.15	2.23	1.50
	食事栄養	方法内容	1.81	1.43	2.28	1.70	2.00	1.60	2.00	1.76
	食事栄養	経管栄養	1.10	2.50	1.81	1.82	1.54	1.43	1.24	2.00
	排泄	オムツ交換	2.29	1.42	2.98	1.73	3.00	1.62	2.32	1.42
	排泄	排泄訓練	1.86	1.46	2.73	1.93	2.85	1.77	1.64	1.82
	排泄	浣腸摘便	1.48	1.56	1.94	1.95	1.62	1.67	1.59	1.73
	排泄	留置カテーテル	1.00	—	1.43	1.83	1.31	2.00	1.14	1.67
	入浴清拭	洗面髭剃	2.38	1.20	2.82	1.40	3.00	1.38	2.41	1.55
	入浴清拭	入浴適否	2.19	1.30	2.19	1.74	2.00	1.38	2.09	1.88
	入浴清拭	入浴介助	2.29	1.53	2.92	1.84	3.00	1.62	2.59	1.60
	入浴清拭	清拭	2.00	1.47	2.89	1.63	2.77	1.33	2.55	1.50
	衣服	着脱介助	2.57	1.25	2.94	1.67	3.00	1.46	2.64	1.55
	衣服	収納整理	2.76	1.35	2.90	1.57	2.85	1.42	2.27	1.37
	睡眠	環境整備	2.52	1.24	2.87	1.44	2.75	1.27	1.71	1.33
	睡眠	入眠介添	1.86	1.31	2.68	1.70	2.85	1.50	1.00	—
	睡眠	夜間巡視	1.86	1.42	2.71	1.71	2.85	1.25	1.00	—
生 活	移動	起居移動	2.19	1.31	2.92	1.80	2.92	1.69	2.27	1.58
	移動	歩行散歩	2.24	1.29	2.65	1.69	2.77	1.50	2.27	1.53
	移動	車椅子	1.95	1.38	2.63	1.64	2.31	1.30	2.32	1.58
	金銭	お使い	2.48	1.17	2.21	1.62	1.92	1.38	2.77	1.45
	金銭	外出付添	2.52	1.35	2.13	1.65	1.62	1.29	2.73	1.43
	金銭	金銭管理	1.95	1.21	1.52	1.86	1.46	1.20	1.57	1.80
	金銭	交通機関	2.14	1.24	1.15	1.40	1.08	1.00	1.38	1.57
	整理整頓	居室ロッカー	2.71	1.42	2.85	1.57	2.85	1.45	2.50	1.40
	整理整頓	介護用品	1.95	1.27	2.33	1.62	2.31	1.27	1.77	1.69
	整理整頓	寝具手入	2.67	1.16	2.92	1.48	2.77	1.33	2.68	1.27
	レクリエーション	行事企画	2.33	1.55	2.16	2.00	2.23	1.45	1.62	2.10
	レクリエーション	行事实施	2.48	1.55	2.24	1.92	2.46	1.50	1.76	1.92
	レクリエーション	趣味支援	2.52	1.53	2.24	2.00	2.38	1.42	1.68	1.80
	安全・防災	防火防災	2.05	1.41	1.98	1.72	1.92	1.38	2.32	1.80

表3-2 関わり度と困難度の平均値(Ⅱ)

施設・事業所			養護 老人ホーム		特別養護 老人ホーム		老人保健施設		社会福祉 協議会・他	
職 種			寮 母		寮 母		介 護 員		ヘルパー	
回 答 者 数			21		62		13		22	
種 類	項 目	業 務 内 容	関 わ り 度	困 難 度	関 わ り 度	困 難 度	関 わ り 度	困 難 度	関 わ り 度	困 難 度
情 報	コミュニケーション	話し相手	2.76	1.16	2.84	1.54	2.92	1.33	2.77	1.40
	コミュニケーション	代筆・代読	2.33	1.11	2.16	1.49	2.31	1.10	2.45	1.40
	情報	人間関係	2.33	1.58	2.13	2.06	2.08	1.50	2.50	2.14
	情報	相談助言	2.00	1.33	1.90	1.93	1.69	1.50	2.55	1.84
	情報	福祉医療	1.70	1.33	1.60	1.87	1.54	1.67	2.86	1.71
	情報	処遇計画	2.57	1.55	2.63	2.05	2.15	1.60	2.55	1.90
	情報	業務調整	2.43	1.53	2.48	1.98	2.00	1.63	2.55	1.85
	情報	機関連絡	1.81	1.33	1.48	1.84	1.46	1.60	2.41	1.95
	情報	入退所時	1.71	1.09	1.70	1.88	1.69	1.50	2.14	1.81
	情報	ボランティア実習	2.10	1.69	2.47	2.00	2.08	1.60	2.05	1.75
	対家族	技術指導	1.40	1.50	1.64	1.89	1.85	1.63	2.23	1.87
	対家族	住居助言	1.20	1.00	1.30	1.73	1.54	1.60	2.10	1.89
	対家族	機器紹介	1.45	1.67	1.69	1.62	1.85	1.33	2.59	1.57
医 療	健康観察	顔色体調	2.62	1.52	2.82	1.68	2.54	1.38	2.86	1.55
	健康観察	体温脈拍	2.00	1.37	2.26	1.59	2.00	1.45	2.05	1.44
	健康観察	血圧	1.67	1.62	1.89	1.75	2.00	1.30	1.29	1.67
	褥創	体位変換	1.52	1.25	2.81	1.78	2.62	1.42	2.00	1.53
	褥創	手当	1.33	1.67	1.70	1.69	1.46	1.40	1.71	1.58
	服薬	服薬介助	2.00	1.39	2.48	1.58	1.92	1.40	1.59	1.64
	服薬	薬効観察	1.52	1.90	2.13	1.77	1.62	1.57	1.41	1.63
	服薬	指導保管	1.33	1.57	1.41	1.95	1.08	1.00	1.59	1.64
	救急処置	外傷火傷	1.71	1.77	1.77	2.13	1.54	2.00	1.57	1.56
	救急処置	窒息デカン	1.71	2.23	2.13	2.28	1.62	2.14	1.48	2.00
	救急処置	人工呼吸	1.57	2.17	1.56	2.19	1.38	2.25	1.33	1.80
	感染予防	指導	1.43	2.00	1.61	2.03	1.38	1.75	1.90	1.73
	感染予防	MRSA	1.48	2.00	1.69	2.17	1.23	2.33	1.76	1.63
	訓練プログラム	作成	1.45	1.89	1.52	2.10	1.33	1.67	1.14	2.00
	訓練プログラム	実施	1.25	1.20	1.58	2.08	1.75	1.60	1.24	2.00
末 期	ターミナル	精神支援	1.90	2.07	1.95	2.27	1.46	2.40	1.81	1.69
	死後の対応	遺体清拭	1.85	1.63	2.10	1.94	1.50	1.67	1.05	1.00
	死後の対応	葬儀相談	1.60	1.40	1.18	1.67	1.00	—	1.19	1.50
	死後の対応	遺族支援	1.50	1.63	1.18	1.50	1.08	3.00	1.38	1.57
在 宅	在宅	アフターケア	1.05	1.00	1.10	1.75	1.31	1.67	1.32	2.25
	在宅	訪問相談	1.05	1.00	1.18	1.83	1.08	2.00	2.68	1.79
	在宅	療養指導	1.05	1.00	1.15	1.80	1.15	1.50	1.86	2.00

介護福祉士の3種施設における介護と在宅介護の比較

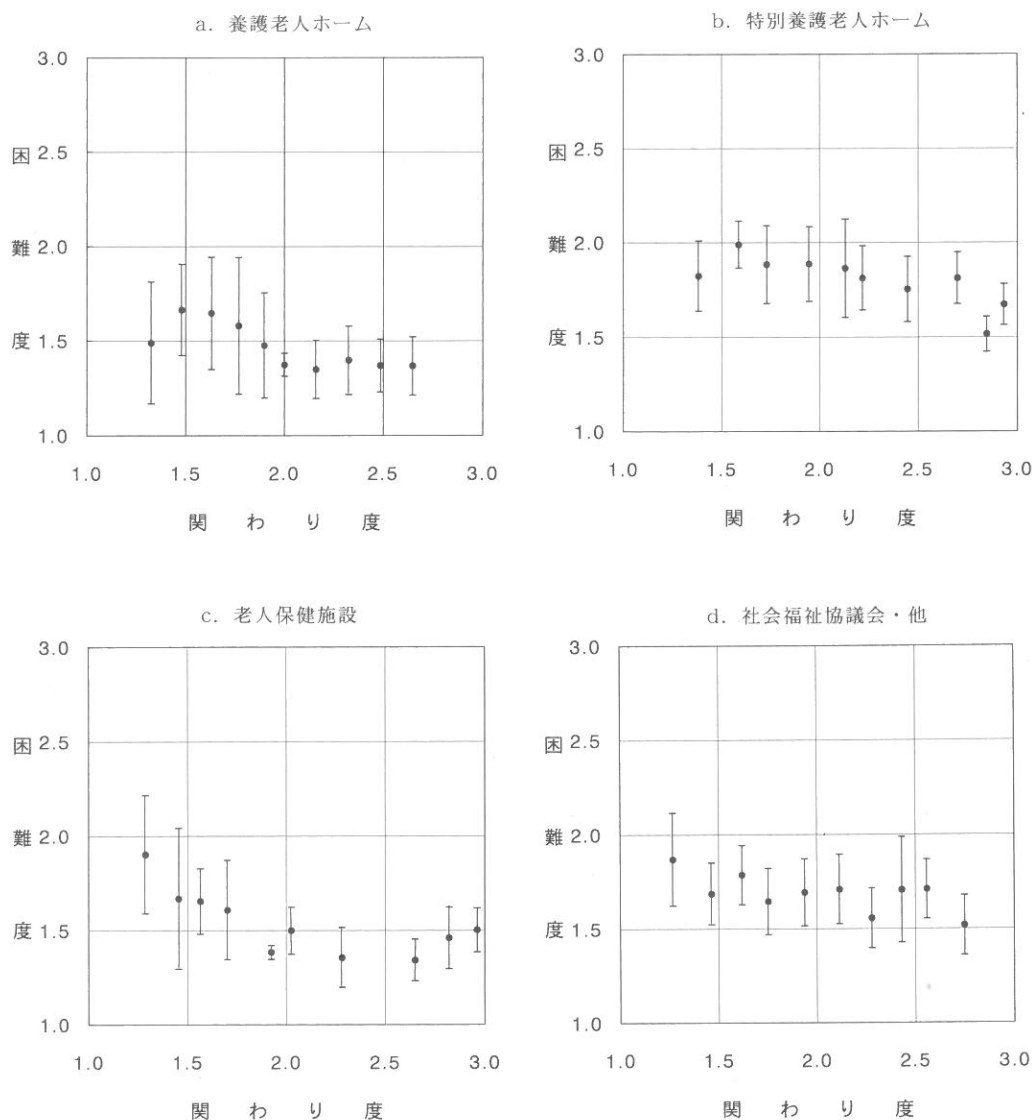


図1. 関わり度・困難度の散布図

表4 関わり度と困難度の相関分析

施設・事業所	回帰直線		相関の有無の検定		
	傾き	y 切片	相関係数	t_0	P
介護老人ホーム	-0.215	1.897	-0.352	-3.034	<0.01
特別介護老人ホーム	-0.178	2.191	-0.440	-3.955	<0.01
老人保健施設	-0.200	1.956	-0.441	-3.958	<0.01
社協・その他	-0.143	1.976	-0.323	-2.754	<0.01

設においては、比較的関わり度の低い業務に、困難度の高い業務と低い業務が混在していた。

業務全般に渡る関わり度と困難度の間の回帰直線の傾きは4施設・事業所で総て負の値を示し、相関係数より求めた“母集団の相関係数が0であるかどうか”の検定では

$$|t_0| > t(62-2, 0.01) = 2.660$$

より、帰無仮説：相関係数＝0は1%以下の危険率を持って棄却された³⁾(表4)。よって4施設・事業所共に62業務に対する関わり度と困難度の間には負の相関が認められた。

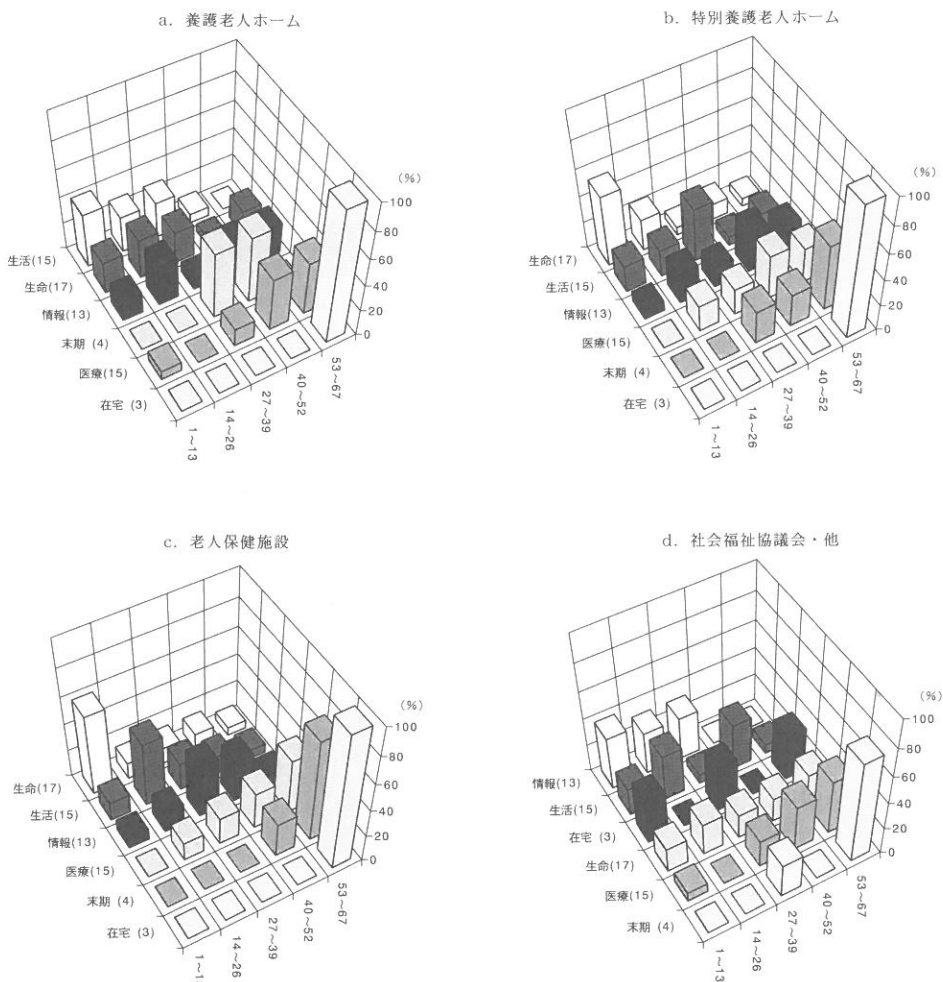


図2. 関わり度順位・業務内容の散布図

(b) 種類別に見た67業務の関わり度順位

介護老人ホームにおいては『生活』、『生命』、『情報』、『末期』、『医療』、『在宅』の順に関わり度が低くなる傾向が見られた(図2)。特に『生活』では各順位グループに占める業務数が、最上位グループより最下位グループに向かって6/13, 4/13, 4/13, 1/13, 0/15と上位を占め

る傾向が強かった。また『生命』も『生活』に次いで上位を占める傾向にあったが、〔経管栄養〕に関わった回答者は21人中1人（関わり度=1.1）、〔留置カテーテル〕に関わった回答者も21人中0人（関わり度=1.0）と極めて低かった。『情報』では「対家族」の項目に含まれた3業務総てが『情報』の中では最下位であった。『医療』においては下位を占める傾向が強かったが、「健康観察」項目の「顔色体調を見る」のみ、関わり度=2.6と67業務中5位と高かった。64位から66位を占めた『在宅』では3業務のいずれも関わった回答者は1人（関わり度=1.1）であった。

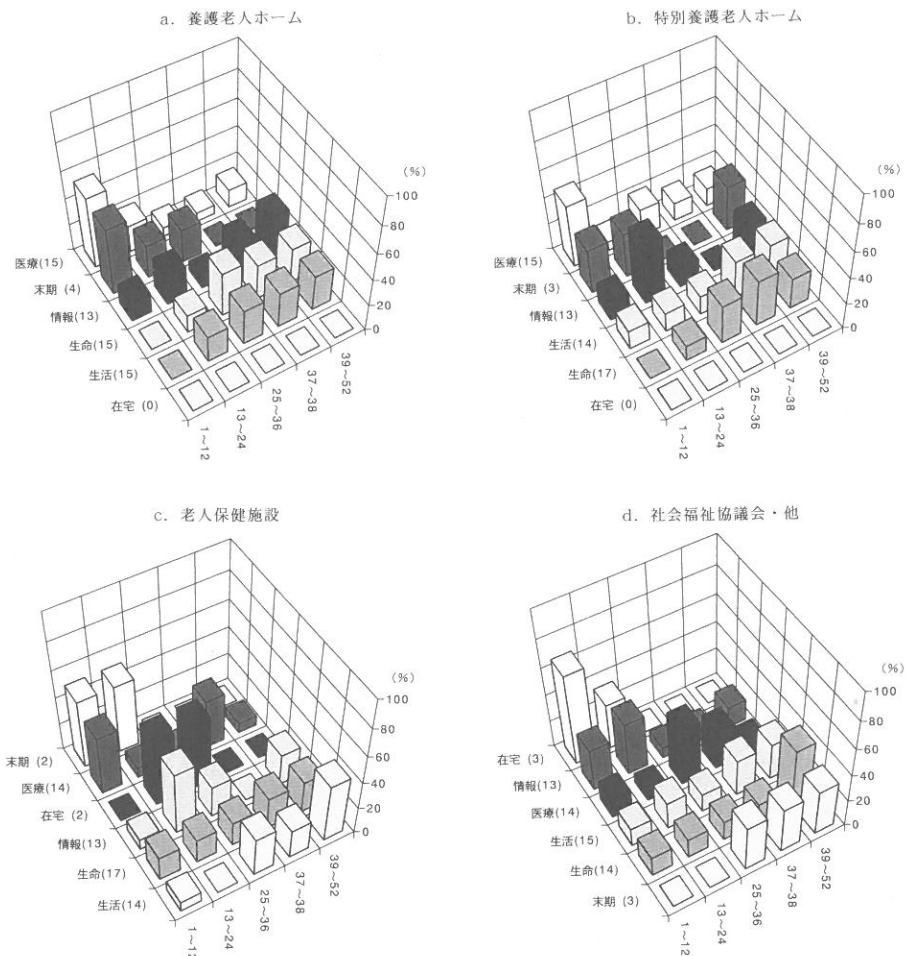


図3. 困難度順位・業務内容の散布図

特別養護老人ホームでは『生命』に関する業務の関わり度が他の業務と比較してかなり高く、全17業務の中で9業務（53%）が関わり度の最上位グループ（13業務）中に集中していた。次いで『生活』に関する業務は67業務の関わり度の順位の中で中位を占める傾向が見られ、更に『情報』、『医療』、『末期』、『在宅』順に関わり度が低くなっていた。『在宅』に含まれた3業務の関わり度は養護老人ホームと同様に1.1あるいは1.2と極めて低かった。

老人保健施設では、6種類の業務への関わり度の順位は特別養護老人ホームと類似しており『生命』、『生活』、『情報』、『医療』、『末期』、『在宅』の順に関わり度が低くなる傾向が見られた。

社会福祉協議会・他では『情報』13業務総てが関わり度順の上位5分の3以内に集中していた。『生活』、『在宅』、『生命』に関しては最上位グループから最下位グループまで関わり度の順位において幅広い分布が見られた。『医療』は下位を占める傾向が見られたが、ただ〔顔色体調を見る〕が全業務の中で1位（関わり度=2.9）を占めていた。

(c) 種類別に見た67業務の困難度順位

養護老人ホームにおいては『医療』、『末期』、『情報』、『生命』、『生活』の順に困難度が低くなる傾向が見られた（図3）。

特別養護老人ホームにおいては『医療』、『末期』、『情報』、『生活』、『生命』の順に困難度が低くなる傾向が見られた。しかし『末期』の中でも〔遺族支援〕業務は、最下位グループに属していた。

老人保健施設においては『末期』、『医療』、『在宅』、『情報』、『生命』、『生活』の順に、また社会福祉協議会・他では『在宅』、『情報』、『医療』、『生活』、『生命』、『末期』の順に困難度が低くなる傾向が見られた。

それぞれの種類別業務の中で困難度の高い業務を、4種の施設・事業所別に抽出してみると、『医療』に関しては、とりわけ「救急処置」と「感染予防」に属する全5業務総てが、入所型施設介護（養護老人ホーム、特別養護老人ホーム及び老人保健施設）のいずれにおいても67業務中最上位グループに属していた。『情報』の中では、特別養護老人ホームと社会福祉協議会・他において、〔人間関係の相談に乗る〕が最も困難度の高い業務であり、養護老人ホームにおいても3位を占めていた。逆に「コミュニケーション」項目に含まれる全2業務、すなわち〔話し相手〕と〔代筆代読〕は4種の施設・事業所共に困難度が相対的に極めて低い業務であり、67業務中最下位グループの中でも更に下位を占める傾向にあった。『生命』の中では、特別養護老人ホームにおいて「排泄」全4業務の中の2業務が1位、2位を占め、老人保健施設においては1位から4位を占めていた。また養護老人ホームにおいても『生命』全15業務の中で「排泄」全3業務が1位、4位、6位を占めており、『生命』の中では「排泄」業務が最も困難を感じる業務であった。『生活』においては「レクリエーション」全3業務が養護老人ホーム特別養護老人ホームにおいては1位から3位を占め、社会福祉協議会・他では1位、2位、4位を、老人保健施設においても3位、5位、6位を占めており、『生活』15業務の中では「レクリエーション」が最も困難を感じる業務であった。『在宅』は養護老人ホームと特別養護老人ホームで関与人数が回答者の15%に満たなかったが、老人保健施設では困難度は67業務中、中程度を、社会福祉協議会・他では上位を占めていた。

考 察

基本事項

老人保健施設勤務の介護福祉士の勤務年数、経験年数が極めて少ないのは、開設して間がない施設が多いとはいえ（回答者の勤務する老人保健施設の開設年：1988年～1992年）もう少し年配者あるいは職務経験の豊かな人が必要ではないだろうかとの疑問を我々に抱かせた。介護の質を考えた時、危惧を感じるのは我々だけだろうか。

取得資格・免許の中で、保母資格を有する介護福祉士が最も多かったが、これは近年出生数が減少を続けており、昭和48年の第二次ベビーブームのピークに比べて、平成4年には6割弱に減少しており、一方65歳以上の老年人口は約2倍に増加し⁵⁾、保育所及び児童福祉施設における求人数の減少と、寮母職の求人数の増加の結果と思われた。

希望資格の中で社会福祉士を希望する者が多かったのは、平均年齢から鑑みて国家試験による介護福祉士の資格取得者が多数を占めていることが容易に想像され、この人達はケア・ワーカーの中でも意識の高いグループに属するのではないかと思われ、介護福祉士及び社会福祉士という新制度に対してで現場の方々の意欲が伝わってくる数字であった。また介護福祉士の資格を持ちながら更にホームヘルパーの資格を希望する者が少なからず見受けられたことは、近年在宅介護の需要が増え、今回の調査でも窺えるが施設入所型介護と在宅介護の業務内容にはかなりの違いがあり、制度上は介護福祉士の資格で在宅介護の任に適うのではあるが、実際面に於いて介護福祉士が在宅介護に携わるに際しては、プラスアルファの知識・技術・能力を必要とを感じるのではなかろうか。更にこれまで入所型介護のみの施設が、デイ・サービス等の在宅老人への介護の提供を行うようになり、施設の中でより在宅介護の技能が要求されるようになりつつあるのかもしれない。いずれにしろ日本に於ける社会福祉の制度上の複雑さを反映した、あるいはその過渡期の現象であろう。さらに老人保健施設において、聴能、言語訓練士の資格を希望する介護福祉士が他の施設・業所に比べはるかに多かったのは、利用者が社会復帰を目指しているからであろうが施設側の要望を受けてのことなのか、あるいは介護業務の中で肌で感じたものなのかは今回の調査からだけでは判断がつかなかった。

業務内容

関わり度に関しては、利用者のADLが比較的高い養護老人ホームにおいては生活介助の業務が、ADLの低い特別養護老人ホーム、老人保健施設においては生命維持に必要な介護業務が最も関わり度の高い業務であった。しかし社会福祉協議会・他に勤務する介護福祉士にとっては福祉医療制度の説明、福祉介護機器の紹介、対人関係の助言、処遇計画、住居助言、技術指導等の情報伝達業務を中心に、施設では相談員が行う業務⁴⁾が最も関わり度が高く、施設型介護と在宅

介護の業務内容の隔たりを強く感ずる結果となった。本専攻では、特別養護老人ホームの介護業務に重点を置いたカリキュラムが編成されているが、時代の要請に伴って見直しをはかる時期に来ているように思われた。また生命維持に必要な介護業務の中で留置カテーテルの管理や経管栄養、浣腸摘便等、医療・看護色の強い業務は未だ介護福祉士が関与していないようであるが、この介護と看護の接点をどうするかが介護業務の専門化と高度化、そしてケアワーカーによる在宅介護が普及するにつれて、解決を迫られる問題であろう。

困難度については、施設型介護では医療・看護系の業務が際だって困難を感じずる業務に位置づけられており、これからの介護福祉士の養成に当たり留意しなければならないと強く感じたが、それでは現場で今、介護福祉士と看護婦がどのような意識を持って、どのようにこれらの業務を単独であるいは協力して行っているのか、そして今後どうなるのか、大きな疑問を我々に残してくれたように思う。

最後に、末期の精神支援が67業務中養護老人ホームで3位、特別養護老人ホームで2位、老人保健施設で1位と、施設型介護において67業務中1位の困難度を占め、介護業務がいかに高度な幅広い人間性を要求される職種かということを改めて感じさせた今回の調査であった。

参考文献

- 1) 桜井慶一・井村圭壮：社会福祉を学ぶ：24-31
- 2) 厚生統計協会編：国民福祉の動向：1994年
- 3) 柳川 洋ほか：疫学マニュアル：46
- 4) 岡山県立大学短期大学部介護福祉教育研究会：老人・障害者(児)援助業務に関する調査 報告書：1994年
- 5) 厚生統計協会編：国民衛生の動向：1994年

(平成6年11月30日受理)